

研究実施のお知らせ

研究課題名

当院における大腸癌手術における腹壁癒痕ヘルニアの発症に対するリスクファクターの同定

研究の対象となる方

2019年4月1日から2023年4月30日までに大田市立病院において、大腸手術を行った全患者が対象です。

研究の目的

本邦では大腸癌が年々増加しており、2019年には、大腸癌罹患率は総数では一位となっている疾患です。大腸癌に対する外科的治療は、現在腹腔鏡手術および、開腹手術で行うことが一般的ですが、開腹手術の場合、2-33%に腹壁癒痕ヘルニアが生じるとされ、最も多い合併症の一つではありますが、8-29%の症例は無症候性で、実際の頻度はさらに高いと考えられています。腹壁癒痕ヘルニアは、時に患者のQOLを低下させ、手術による治療を要する必要もある疾患であります。

腹壁癒痕ヘルニア自体は、様々な要因が現在指摘されており、多くは患者要因(肥満や2型DMの合併、慢性咳嗽、化学療法、ステロイドの使用など)と手術要因(創感染、切開部位、手術内容、緊急手術、術中出血量、輸血など)に分類されます。

そのために、当院で行われた大腸癌を含む大腸手術症例に対し、術後腹壁癒痕ヘルニアを来しうるリスクファクターについて、明確にする必要があり、個々のリスクに対して対応策を講じる必要があると考えます。

研究の方法

この研究は、既存の臨床情報(診療で得られた情報)を用いる後ろ向き観察(コホート)研究です。

個人情報保護の観点から、対象者は研究専用のID番号で管理され、誰の情報かわからない状態で集約されます。

研究の期間

2024年5月14日～2025年12月31日

研究に用いる情報の種類

- ① 臨床所見(年齢、性別、身長、体重、病歴に関する情報、臨床病期 など)
- ② 血液所見(CBC、白血球分画、肝腎機能、凝固機能、腫瘍マーカー など)
- ③ 病理学的所見、遺伝子情報(K-ras、B-RAF、MSI) など
- ④ 手術(術式、手術時間、出血量、術中循環モニター(体温、血圧、SpO2) など)
- ⑤ 画像情報(CTおよび胸部レントゲン など)
- ⑥ 入院情報(入院日、退院日、看護記録、投薬情報 など)

⑦ 治療経過(合併症の有無、抗がん剤治療の有無、再発情報など)

外部への情報の提供

この研究から明らかになった情報については学会発表および論文発表を通して公開する予定です。また、このような国内のデータはこれまで限られていることから、今後、本邦で増えていく超高齢者の大腸疾患の患者を治療するにあたり役立つことが期待されます。なお、外部のデータベースへの登録を希望されない場合は申し出てください。

研究組織

研究代表者：大田市立病院 外科・部長 山口峰一

お問い合わせ先

情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお申し出下さい。その場合でも、お申し出により研究の対象となる方その他に不利益が生じることはありません。ただし、研究実施上、既に個人が特定できない状態での解析の対象となった場合など、除外できない場合があります。

本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問合せ下さい。また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申し出下さい。

研究代表者連絡先：

住所：島根県大田市大田町吉永 1428 番地 3

電話：0854-82-0330

大田市立病院 外科・部長 山口峰一